

自己評価結果公表シート

令和6年度門真めぐみ幼稚園
めぐみっこクラブ

1、園の教育目標

寺院より発祥した歴史的な基盤をもとに「あたたかい心の教育」を実践しています。それゆえに教育方針は「精神的には良寛上人に学び、その実践的技術は現代に学ぶ」を根底におき次のような「五つのちかい」により子どもたちの目標像を明らかにしています。

- 一、私たちは良き挨拶をする子どもになります
- 一、私たちは良きビジョンをもつ子どもになります
- 一、私たちは良く学ぶ子どもになります
- 一、私たちは良く感謝する子どもになります
- 一、私たちは良く奉仕する子どもになります

この「誓い」は仏教の「五正行」の教えをもとに考案し、子どもたち一人一人の生涯にわたる指針としても役立つものと考えています。

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 本園の上記の方針に沿って、園児の「幼児期に育ってほしい10の姿」を、園生活を通して相互に関連を持たせながらバランスよく総合的に養う。語の数が増える幼児期に絵本に楽しむこと、絵本のコーナーを充実し、「童話・童謡」に親しみを持つ。又古くから伝わる、こどもの日、七夕、お月見、ひな祭りなどの年中行事を園全体の「集い」とし、影絵、人形を使用し、子どもたちに親しみながら興味を持たせる。また三輪車を体育遊びに引き続き導入しアクティブラーニングを取り入れ、ルールを守ること、体を使って遊ぶことの楽しさを知り、体力向上を目指す。
- 今年度も引き続き、幼小連携や地域とのつながりを大切に、民生委員・児童委員活動の一環の子育て支援の「場」を提供して園児と一緒に交流を深める。
- 一時預かり事業の充実のため、乳児保育の研修（体育あそび、絵画制作等）を受け、職員の資質向上を目指す。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取 組 状 況
保育内容及び指導のあり方等を精査し、教職員間の共通理解をはかる	A	○ 保育内容を充実させるために毎週学年ごとにチーフを中心に話し合い保育の展開に役立てる。 ○ 日々の保育の延長上に「行事」（運動会・音楽会 etc）があること、経験することにより子ども一人一人が自信を持てるよう適切に個々に言葉をかける。 ○ 安全管理については各保育室、遊具の点検票を作成し行っている。防災意識を高めるため、避難訓練を毎月保育の中に取り入れ、紙芝居等を通

		して楽しみながら大切さに気づくよう配慮している。 ○ 特別支援については一人一人個々により発達が違うので指導計画を立て時には、市の発達相談を踏まえ、また保護者の意見も重視しながら個別支援計画を立てている。 ○ 食育については、給食時に赤（身体を作る基礎となる）・緑（身体の調子を整える）・黄色（身体を動かすエネルギーとなる）の色分けし学びを取り入れ、同時にマナーも学習。元めぐみ幼稚園の保護者の方が、草花や野菜の栽培計画を立て園児に指導（HP「毎日の出来事」参照）、春に野菜やさつまいもの苗を植え、夏に野菜、秋にさつまいも収穫、冬に球根（チューリップ、ヒヤシンス等）を植えつけ、四季を通して園庭に草花が咲き、植物を育てる楽しさを味わい、また秋のいも掘り、みかん狩り遠足を通して自然の収穫の喜びを味わう。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる	A	○ 絵画・制作では学年ごとに講師を招き、園内研修を充実し、公開保育を目指している。発達段階に沿った「あそび」を学び、子ども達に還元する。 ○ 子どもたちが楽しみにしているお誕生会を充実するために、パネルシアターや人形劇、絵本の与え方を職員のスキル向上を目標に、講師に指導していただいている。 ○ 体育遊びは講師を招き、年間カリキュラムを作り行う。学期ごとに講師より研修を受けている。 ○ 外部研修に参加後はレポートを提出し、同時に保育に活かせるように考える。
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る	B	○ 年 2 回の懇談会により、保護者のニーズの把握をし、クラス単位の HP で園の生活が保護者に伝わるように工夫した。 ○ バスキャッチ導入により保護者の要望である保健衛生情報、例えばインフルエンザ、麻疹、水疱瘡等を手軽に知らせることが出来ている。 ○ 保護者の要望（クレーム等）は真摯に受け止め、園全体で把握、素早く対応し、終了で職員に共通理解をしている。 ○ 子供についての相談等、担任は時間の許す限り保護者とコミュニケーションを取るようにして信頼関係を築いていく。
地域社会との連携	A	○ 園庭開放やめぐみ広場を通して地域の人々と交流し、HP や園の正門、バス等で行事を周知し地域の安心できる遊び場として、又、子育てのセンター的な役割が果たすことができるよう努力している。 ○ 盆踊り等季節の行事、園で開催している「お誕生会」や「集い」にも地域の方が参加できるように案内をしている。
情報公開	A	○ 保護者が入園を選択するという幼稚園の特性より、積極的に園だよりやホームページで園の方針や教育活動などを伝えるように努めてきた。22 年度より「毎日のできごと」等、クラス単位での活動を公開し、毎年さらなる充実を目指している。 ○ HP 上に「情報公開」の項目を公開している。

		○ 子育て支援(園庭開放・めぐみ広場・さくらんぼ組・ぴよぴよ広場)の日程をトップページの「おたより欄」に掲載し、地域の方々に伝えている。
--	--	--

- A. 十分達成されている B. 達成されている C. 組み込まれているが、成果が十分ではない
D. 組み込みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

A	○ 昨年度、コロナ5類移行を踏まえ、縮小していた行事をコロナ禍以前に戻し一定の評価を得た。今年度は引き続きより充実したものになるように努力したが、園児減少のため、新たな取り組みを考える必要に迫られている。 ○ 園の特色である教育目標や幼児期に育って欲しい10の姿の理解を自己評価に加え、職員にその都度啓発したところ、職員の意識が高まり公開保育で外部の方や保護者から保育の質が向上したと好評を得た。 ○ コロナ禍に生まれた子どもたちの体力低下がみられたので、体育あそびを中心に「園庭で遊ぶ」「たくさん遊ぶ」ように気を配った。3学期には外で元気いっぱい身体を使って遊ぶ子どもたちが増えた。 ○ コロナ禍以前の保育、リズムあそび等友だちと触れ合ったり、歌を気にせず歌ったりと、お友だちと触れ合う遊びを取り入れ、少しずつ成果が出てきた。 ○ 園が「子育て支援」の情報をHPで発信していくことにより地域とのつながりや家庭との連携を深める。 ○ 基本的生活習慣の自立に向け、年齢に応じて指導を継続的に行っていこうと考えている。6年度より1歳児に布おむつを採用、結果1年間でトイレトレーニングが完成できる人数が増えた。
---	---

- A. 十分達成されている B. 達成されている C. 組み込まれているが、成果が十分ではない
D. 組み込みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園に対する保護者の満足度の把握	保護者が構成している後援会や実行委員の方々と協議しながら園の行事をすすめている。担任が窓口になり、満足度が最高ではないが一定の評価を得ている。
子育て支援の充実	未就園児保育・園庭開放等子育て支援に加え、終了後も子育て相談を行い、適時アドバイスをする。 子育て支援の低年齢化が傾向としてみられ、より幅広い知識を身につけることに注力している。また、一時預かり保育事業で0歳児の応募が多かったので人員を増やして対応したい。
心を育てる教育	仏教園ならではの特性を生かし 1、教師や友達のかかわりを通して、思いやりや自己肯定感を育てていく 2、ルールやマナーを守り、特に年長組に対しては相手の立場に立って考える等規範意識を育てていく。

	上記を踏まえ、運動会・生活発表会・絵画制作展などの「行事」を通して、保育者との関わりの中で自尊感情、自己有用感を育む。 3、園の教育目標の「あいさつをすることも（おはようございます、ありがとう等）」その場に応じて相手に伝えることができるような子どもに育てる。
教育・保育要領の改訂の方向性と整合性の確保	幼児期の終わりまで育ってほしい姿をアクティブラーニングの視点から保育内容を見直す為、職員研修の外部研修の機会を設けたり、府の幼児教育アドバイザーの資格取得（2名）、7年度取得を目指している（3名）。園内研修の充実、改訂を踏まえ、職員の質向上を目指しているが、個人差が大きい。
特別支援教育	増加傾向にある支援を要する子どもについては、インクルーシブ教育を目指すと共に、職員や行政の巡回相談で対応している。今後はキンダーカウンセラー事業も活用し、保護者からの相談にも対応したい。一人一人の支援、園児の特性に見合った体制づくりを進めていくと、予算や職員配置、特に「人」が足りず苦慮している。
防災・防犯に対する意識の向上	880万人の訓練など、積極的に取り入れ毎月の防災、防犯避難訓練を通し、園児の意識向上につなげている。 また同時に紙芝居や防災訓練時の講話を通して防災教育を図っている。
幼小保こ連携	門真市では市の主導で平成30年3月に「門真市就学前教育・保育・共通カリキュラム」を作成している。当園ではこれに基づき自園のカリキュラムを加えている。 園の保育を広く知っていただくために公開保育をし、小学校の校長に参加いただき、直接「幼小」の課題について意見を交換する機会を持った。また、幼稚園側からも近隣の小学校のオープンスクールに参加、年長児と小学1年生との交流会参加など少しでも小学校生活を理解できるよう努力した。また、小学生・教職員の園見学、就学時には幼小職員間でも一人一人丁寧に引継ぎをしている。

学校関係者評価

● 各クラス担当の先生だけでなく、園全体で子どもの活動している様子を見守ってくれたり、時には子どもたちと一緒に楽しんでもらっている先生方の姿を見て安心して子どもを預けられる園だと感謝しております。行事もたくさん行ってくれ、子どもたちの成長を感じることができました。先生方が日頃から1人1人の子どもの寄り添い、サポートしていただいているおかげだと思います。家庭では教えきれないことを園でたくさん学んで楽しそうに通うことができました。本当に感謝しております。5の「今後取り組むべき課題」として、園に対する保護者から調査する機会がありますか？もしなければ検討していただければと思います。心のない理不尽な意見もあるかもしれませんが、後援会、実行委員では出てこなかった意見もあるかもしれないと思いました。あまりお力になれずすみませんでした。 ● 入園させてから、仏教園ということもあり、すぐに礼儀作法は出来るようになったと思います。以前は別の保育園に通わせていましたが、食事中はしっかりと座っていられるようになったり、朝の挨拶もお歌も上手にできるようになり、とても成長したと思います。又、行事やイベントも多く、とても楽しく通園しております。朝はぐずる事もなく、「先生行く！」と言ってくれるので助かっています。花や野菜を園で作ったり、カブトムシを育てたりと、植物や色々な物の成長も教えてく

れるので、豊かに育ってくれているなと感じます。連絡事項などは前もって手紙を頂けますが、直前でバスキャッチでのメールで再度連絡をもらえるので、とても助かっています。先生たちもお迎えで顔を合わせるとその日の子どもの様子を担任の先生以外でもして下さるので、よく子どもを見てくれるいい園だなと感謝しています。

- 私達保護者は、幼稚園が子どもたちの成長を支える場として、日々努力を重ねていることを感じています。運動会、生活発表会、絵画制作展などの行事を通じて、教師とのかかわりの中で子どもたちの自尊感情や自己有用感が育まれていると感じます。保護者として後援会や実行委員会として園と協力しながら進める行事は満足度が最高とまではいかないものの、子どもたちの笑顔や成長を見られる貴重な機会となっています。

《公開保育アンケートより》

- 導入をしっかりしていたので活動中も導入の内容を考えながら活動に参加できていた。
- 活動の内容だけでなく、数や色など5領域を意識した導入や活動の内容になっていた。
- 先生たちの落ち着いた口調と優しさが貴園全体から感じ取られ、子どもに愛情深い園と思います。子どもたちの集中力が高かったです。子どもを引きつける仕掛けが素晴らしいです。環境、先生たちの雰囲気など全体に落ち着いた園であると感じました。子どもたちも安心感を持っていると思います。
- 教室の整理がとでもよいと感じました。絵本の置き方は子どもに興味を持たせる工夫があると思います。先生たちが園児にとっても優しく接しておられました。各教室の共通した掲示方法が良いと思います。
- 一方的な授業ではなく、子どもたちの意見や発言も取り入れながら進められていたところ、配慮が必要な子にも補佐の先生が付き一緒に進められていたところが良かった。
- 明るく、緊張感をあえて出していなかったことが印象に残った。
- 子どもの成長に応じて指導を変えていたり、みんなで取り組んでいることがわかった。
- 段ボールスタンプ、ビー玉転がし、いろんな色が混ざって幾何学的な模様ができていた。
- ベテランと若手の職員配置がうまくできていると感じる。
- 絵本が教室の前方に効果的に配列されている。
- 保育者の話もしっかり聞いている。伸び伸びと保育を行っている。子ども自身が考えるような保育をされている。
- 子どもは伸び伸びと活動に取り組んでいる。子どもの発言を丁寧にくみとって共感している。